

小学館
からの
お知らせ

1/3

速報

第26回

「小学館ノンフィクション大賞」 最終選考結果のお知らせ

大賞

『**家族写真** 3・11原発事故と忘れられた津波』

笠井千晶(かさい・ちあき)

小学館は本日、『週刊ポスト』『女性セブン』『SAPIO』3誌主催による「第26回小学館ノンフィクション大賞」の最終選考会（午後6時30分から）を行い、受賞作を決定いたしました。

今回は大賞に笠井千晶『家族写真 3・11原発事故と忘れられた津波』を選考しました。

大賞受賞者には賞金として300万円が贈られます。

受賞を祝う会は、単行本の刊行に合わせて執り行う予定です。

第26回

『小学館ノンフィクション大賞』
最終選考結果のお知らせ

主催 (株)小学館 週刊ポスト／女性セブン／SAPIO



『家族写真 3・11原発事故と忘れられた津波』

笠井千晶 (かさいちあき) 44歳

現住所：東京都 職業：ドキュメンタリー監督／ジャーナリスト

【プロフィール】

1974年12月19日、山梨県生まれ。お茶の水女子大学卒業後、静岡放送、中京テレビに勤務し、ドキュメンタリー番組を制作。2015年にフリーランスに。最初の監督作品であるドキュメンタリー映画『Life 生きてゆく』(2017年公開)で、第5回山本美香記念国際ジャーナリスト賞受賞。

【梗概】

物語の主人公は、震災後の福島県南相馬市で、津波にさらわれた我が子を捜しながら生きる上野敬幸さん(46歳)。上野さんの自宅があった萱浜地区は、津波で集落の7割が流失。上野さんも両親と幼い2人の子どもの家族4人を津波で失った。その後、22キロ先の福島第一原発が爆発。警察も自衛隊も来ない中、上野さんは避難を拒み、仲間たちと自力で捜索を続けた。泥の中から見つけた、長女・永吏可さん(当時8歳)の遺体を、自ら安置所に運んだ。その後も、長男の倅太郎くん(当時3歳)や他の行方不明者を捜し続ける。

震災の年に、上野さんと偶然出会った著者は、突き動かされるように現地に通り、上野さんと妻、震災の年に生まれた次女の日常に、少しずつ寄り添っていく。

やがて上野さんは、第一原発から3キロの大熊町で、娘の捜索をする木村紀夫さんと出会う。木村さんの捜索を手伝ううち、原発周辺で行方不明者の捜索が十分に行われていないことに怒りを募らせる。上野さんら有志による気の遠くなるような捜索活動が続くが、5年9ヶ月後、捜索は奇跡的な結末を迎える。

一方で上野さんは、原発事故の加害者である東京電力の社員達とも、心を通わせていく。「会社としての東電は憎いが、社員一人一人別だ」。物語は、このように言い切る上野さんの、心の変遷を丁寧に描いていく。

南相馬市に通い続ける著者は、やがて、長編ドキュメンタリー映画を作ろうと思い立つ。テレビ局の仕事を辞め、クラウドファンディングで資金を募りながら、映画を完成させるまでの過程も綴っている。

被災当初、押しかけるマスコミに憤り、心を閉ざしていた上野さんは、著者が企画した上映会などで人前に立ち、来場者たちに体験を語りかけるようになった。大切な人を亡くした人たちが、いかに心を回復させていくのかを、描き出した作品だ。

【第26回「小学館ノンフィクション大賞」について】

26回目を数える今回は、本年8月末日に募集を締め切り、100を超える力作が寄せられました。この中から次の5作が、本日午後6時30分から小学館本社で開かれた最終選考にかけられ、高野秀行、三浦しをん、古市憲寿の各選考委員により受賞作が決定いたしました。

【最終候補作】

- 『ある人の渡米記録』
相菌淑子
- 『大阪都構想外伝 西成区長戦記』
臣永正廣
- 『家族写真 3・11原発事故と忘れられた津波』
笠井千晶
- 『「空気」の代弁者 ー百田尚樹、つくる会、普通の人々ー』
石戸諭
- 『リンちゃんへの約束 ベトナム人女子殺害事件、父親の孤独な闘い』
水谷竹秀

- 賞金：大賞＝300万円（複数受賞の場合は分割）
- 発表：受賞作は1月中旬発売号の『週刊ポスト』『女性セブン』
および小社ホームページで発表いたします。受賞作は単行本として刊行予定です。
- 選考委員：高野秀行（ノンフィクション作家）、三浦しをん（作家）、古市憲寿（社会学者）
- 受賞を祝う会は、単行本の刊行に合わせて執り行う予定です。

【小学館ノンフィクション大賞】

「小学館ノンフィクション大賞」は、1993年、創刊25周年を迎えた『週刊ポスト』が『SAPIO』とともに、21世紀へ向け新しい感覚で時代を切り拓いていく新進気鋭のライターに登龍門となるべく、「21世紀国際ノンフィクション大賞」として新設、第7回より「小学館ノンフィクション大賞」と改称したものです。受賞作は『絶対音感』（第4回）、『まぐる土佐船』（第7回）、『ネグレクト』（第11回）、『小倉昌男 祈りと経営』（第22回）など、このジャンルでは異例のベストセラーとなっていることから、当賞がノンフィクションの新しい地平を拓き、新しい才能を発掘するものであることを示していると自負しております。募集作品は未発表作品に限り、海外冒険旅行や、博物誌、観察記、歴史発掘、ビジネスドキュメント、スポーツドキュメント、科学ドキュメントなど、さまざまな視点から「時代」を捉えたものを、国内外を問わず広く世界から求めます。原稿枚数は、400字詰め原稿用紙200～300枚程度で、応募資格は、プロ、アマ、性別、国籍、年齢を問いません。